

花の育て方のポイント・・・アイアイステーション2

(1)ルリマツリ

夏の照りつける太陽の下青い涼しげな花を咲かせる、丈夫で育てやすい上、直射日光にも強く、楽しませてくれます。枝が良く伸びるので、姿が見苦しくなったら、切り戻します。

脇から又枝が出て、沢山の花が咲きます。混みあってきたら、余分な枝を間引いたり、切り戻しましょう。差し芽で簡単に増やせますので、挑戦してみてください。差し穂は3節目の下で切り、2節目の3枚の葉以外は全て落とします。3節目は土の中へ、2節目に葉を3枚くらい付け、その上の節も切り落とします。2節目に小さな新しい葉が出てきます。冬は、軒下へ置いておけば、翌年、又たくさん花が咲きます。



「花いっぱい、見守りいっぱい」
「愛、eyeにあられ」ますよう

(2)ブルーサルビア

夏の太陽に強く、害虫にも強い丈夫な花です。花が終わったら、節の上で切り、種を付けないように、こまめに花柄を取ります。種子が付くと花に栄養が行かなくなるので、こまめに花がらをとりましょう。花が少なくなったら、半分くらいに切り戻します。切ったところから、又脇芽が、出てたくさん花を付けます。ブルーサルビアも差し芽で増やすことができます。花の咲いている元気な枝を切り、付いている花は切り落とし、その下の節に葉を3枚位付け、それ以外の葉は全て落とします。



(3)トレニア

可愛い子つばめが口を開いたような、小花が可愛いですね。トレニアも他の花と同じく、こまめに花柄を摘む事に依り、長く花を楽しむことができます。他の花と同じく、差し芽も出来ますので、たくさん増やしてみてください。

(4)日日草

日日草も丈夫で育てやすいお花です。日日草は花が落ちるので、花がら摘みはしませんが、下に落ちた花は拾った方が、葉ダニの予防になります。伸びて見苦しくなれば、こんもりとなるように、切り戻すと良いでしょう。

注意

差し芽をするときは、肥料の入っていない土が良いので、赤玉や鹿沼土、差し芽用の土とかが良いと思います。後はこまめに花がらを摘んで下さい。

